

北海道・知床の山旅（羅臼岳・斜里岳）

- ・日時 2021.8.24～8.28
- ・メンバー S, H. 他2人
- ・コース（所要時間）
 - 25/水 岩尾別登山口 5:06→木下小屋→羅臼岳 10:29→木下小屋→ホテル地の涯 16:11
（11時間04分）
 - 27/金 斜里岳登山口 6:39→斜里岳 11:20→熊見峠 13:53→斜里岳登山口 16:04
（9時間25分）

8月24日

関空から釧路空港へ。釧路空港は小雨から曇りに。

釧路湿原やオホーツク海、斜里岳、羅臼岳を眺めながら、以前「ホテル地の涯から」というタイトルの山行日記を読んでから憧れていた地の涯へ。



8月25日 世界自然遺産の山・羅臼岳

4時45分にホテルのロビーでヒグマ対策（知床山地はヒグマの生息地）のためにお願
いした地元のガイドさんと待ち合わせ、登山ガイドさんと歩くのは初めてなので楽しみ
です。

登山口のある木下小屋から、広葉樹林のなかを急登していきます。尾根筋に出て、しば
らくするとオホーツク展望地へ、羅臼岳は雲の中ですが山麓は晴れています。
ナナカマドの赤くなった実がきれいな樹林帯を登って、弥三吉水に到着。アキノキリンソ
ウが水場に咲いています。

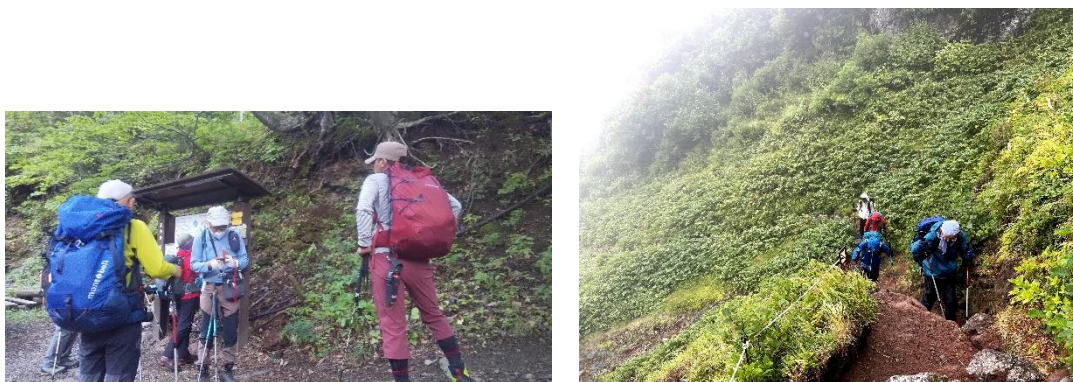
このあたりから天気はどんどん悪くなり、ガイドさんに「山頂に登るのは無理かも・・・」
と言われながら、山頂を目指しました

極楽平から仙人坂を急登して羅臼平。晴れていたら目の前にどーんと羅臼岳山頂が見
えるらしいのですが、展望なし。風雨がますます強くなり、フードロッカーへ食料と水をデ
ポして山頂へ向かいます。

途中でストックをデポし、ザックもデポして、最後の岩場を登ります。吹き飛ばされそ
うになりながら、ガイドさんを頼りに山頂へ。風速20～25m、しゃがむことさえ出来

ません。這いつくばったままやっと1枚だけ写真を撮りました。すぐに下山。滑落しなくてよかったと、思いました。ガイドさんが一緒じゃなかったら諦めていました。ガイドさんに感謝です。

花の名前やハイマツの実やコケモモがクマの好物だということや、クマ対策のことなど、たくさんのことを教えてもらいながら、往路を下りました。



登山口でガイドさんと



羅白平



山頂

8月26日 斜里岳三井登山口下見・摩周湖・硫黄山

予定では、雌阿寒岳に登る日でしたが、この日もてんくらCなので翌日登る斜里岳登山口の下見に変更。清岳荘登山口へ行ってからガイドさんに教えていただいた渡渉や沢を登らない尾根道コース、三井登山口へ。三井コースは休日でも数人しか登られてないヒグマに出会いそうなコースです。

下見後、霧の摩周湖と噴煙が上がる硫黄山へ。三日目は下見と観光を楽しみました。



摩周岳



8月27日 沢を登り斜里岳へ

前日は三井コースで登る予定に変更していましたが、天気も良さそうなので清岳荘から

のコースに戻して、清岳荘登山口へ。山麓は晴天ですが向かう斜里岳は雲の中。

清岳荘の脇からスタート。林道から、旧清岳荘跡、一の沢へ。渡渉が20回ほど続きます。沢沿いに咲くミヤマダイモンジソウがきれいです。下二股から上二股まではいくつもの滝が続き、沢や滝伝いに楽しく登ることができました。

上二股からは急坂を馬の背まで登ります。雲が流れて、山が見えてきましたが、馬の背から斜里岳山頂への登りでまた雲の中へ。

山頂についたときは、雲の中。12時までとどまって青空になるのを待って、知床連山、オホーツク海などパノラマの展望を楽しみました。

下山は、知床連山や霧がない摩周湖を眺めながら上二股から新道の熊見峠へ向かいました。峠から下二股は急坂なので慎重に下って、また渡渉を繰り返して清岳荘まで往路を戻りました。



8月28日 釧路湿原・温根内自然探勝道

空港へ行く前に短時間ですが釧路湿原へ。湿原は爽やかな風が吹いていました。



初めて北海道の山を登ることができました。楽しい山旅を企画してくださったSさん、ありがとうございました。感謝です。
(記 Hirokawa)